

## 新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日 時：令和6年2月9日(金) 16:00～17:00

場 所：脳研究所 A棟 1階 検討会室

### 中枢神経系におけるセロトニン情報伝達の発達 そして制御の分子基盤の解明



二井 健介 先生

米国・マサチューセッツ州立大学  
チャン・メディカルスクール・准教授  
(新潟大学脳研究所共同研究拠点国際共同研究者)

セロトニン神経系は睡眠・摂食といった本能行動から情動・認知機能まで多岐にわたる中枢機能を制御していることから、セロトニン神経系の変化は様々な精神疾患の病態生理に重要な役割を果たしていると考えられている。鬱、自閉症、ADHD等においてセロトニン神経伝達異常は病態生理学的特徴の一つとして考えられており、SSRI (selective serotonin reuptake inhibitor) はこれら精神疾患に広く使用されている薬の一つである。更にこれら精神疾患の多くに性差が見られることから、セロトニン神経系の分子基盤には性差がある可能性が示唆されている。したがって、セロトニン作動性神経細胞の発達、活性化、性差、そしてセロトニン放出機構の分子基盤を明らかにすることは精神疾患の発症メカニズムの解明に繋がる可能性がある。本セミナーでは、昨年度の脳研究所国際共同研究の支援を受け発表した論文を基点に未発表データを加え、セロトニン神経系の発達、性差そして放出に関わる分子基盤について議論する。

どうぞ奮ってご参加ください。 (担当：脳研究所 動物資源開発研究分野)

